

学習課題

みんなで解決したい問い

優れた表現に着目しながら物語の全体像を解明し、『川とノリオ』について解説する「解説ノート」を書こう。

主体的に学習に取り組む態度

わかること・できること

知識・技能

- ⑦ 比喩や反復などの表現の工夫に気づく。(1)ク

考えること・表すこと

思考・判断・表現

- ① 登場人物の相互関係や心情を捉え、「物語の構造図」や「人物関係図」などにまとめる。(C)(1)イ
- ② 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりして、作品を解説する。(C)(1)エ

工夫して学ぼうとすること

- ④ 『川とノリオ』を繰り返し読み、物語の全体像などが伝わるように何度も書き直ししながら、作品を解説する文章を書くとする。



ゴール

【この単元を通した振り返り】

振り返りの観点

- ・「物語の構造図」や「人物関係図」などをまとめるとき、どのようなことに気がつきましたか。
- ・作品を解説する文章を書くとき、どのようなことに気がつきましたか。

【第3ステージ (2) 時間】

評価 ①

〈こんな学習をしてこんな力を！〉

- ⑦ 「あとがき」を書き、解説ノートを完成させる。
- ⑧ 解説ノートを読み合い、学習を振り返る。

【第1ステージ (2) 時間】

〈こんな学習をしてこんな力を！〉

- ① 戦争にまつわる話を read した経験を振り返り、『川とノリオ』を読んで学習課題を立てる。
- ② 作品を解説する文章を書くために必要なことを考え、学習課題の解決の見通しとゴールをイメージし、解説ノートの「まえがき」を書く。

スタート



【この単元に関わって知っていること・できること】

どのような言語活動を通してどのような力をつけてきたか？

物語の全体像を解明し解説する文章を書く活動を通して、登場人物の相互関係や心情を捉えたり、人物像を具体的に想像したりする。



小学校6年『川とノリオ』授業のポイント

単元名 多様な表現に着目して、物語の全体像を解説しよう

本教材は、主人公である「ノリオ」の成長の様子が、周囲の人物との関わりや情景の移り変わりなどを通して描かれた物語です。「母ちゃん」や「じいちゃん」のノリオとの関係や暗示的な情景描写、色の表現などから、ノリオの人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果について考えたりすることができます。



1 単元で身につけたい資質・能力

本単元では、登場人物の相互関係について描写をもとに捉えたり、表現の効果を考えながら物語の全体像を具体的に想像したりする力をつけます。

児童は、『川とノリオ』を読み、多様な表現に着目してその効果を考えるなどしながら、物語の全体像を解明し、作品を解説する文章を書いていきます。物語の全体像を捉えるためには、「何が書かれているか」という言語内容と、「どのように書かれているか」という言語形式の両面から作品に迫る必要があります。比喩や反復などの表現の工夫を見つけ、その効果を考えるとともに、登場人物や場面設定、個々の叙述などを手がかりに、その世界や人物像など、叙述には書かれていないことについても豊かに想像していくことが求められます。そのため、「描写をもとに登場人物の相互関係や心情を捉えるための読み」や「比喩や反復などの表現の工夫を見つけるための読み」、「叙述に書かれていないことを想像するための読み」など、重層的な読解を経て物語の全体像を解明し、解説する文章を記述することになります。

2 評価規準

評価の観点	評価規準
知識・技能	・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。…(1)ク
思考・判断・表現	◎ 「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写をもとに捉えている。…C(1)イ ・ 「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。…C(1)エ
主体的に学習に取り組む態度	・ 物語の全体像を解説する活動を通して、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、比喩や反復などの表現の工夫や効果を考えたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。

本単元における子どもたちのゴールイメージ

本単元では、『川とノリオ』の多様な表現の効果などを考えて物語の全体像を解明し、「解説ノート」にまとめます。「物語の構造図」「人物関係図」「言葉や表現の工夫の解説」をまとめたあと、各自が追究したいと考えた内容や、「川」が何を表しているのかを解説する文章を書きます。言語活動として設定した「解説ノート」を通して、目標の実現状況を評価します。

両親の死とノリオの思いについて200字程度で解説した文章例

ノリオは、母と父の死をどう理解し、どう受け止めたのか。  
二人の死は、どちらもノリオの視点からえがかれている。幼いノリオは母が帰らず新しいばんちようちんが下がっていること、父が「小さな箱」になつたことを見ているが、「死」を理解してはいなかったようである。  
時がたち、小学二年のノリオは「母ちゃんとはロシマで焼死んだ」と聞き、理解している。「何が言えよう」とあるとおり、ノリオには何もできない。「母ちゃん帰れよ」と心でさげすぶノリオは、その思いをかまてたち切ろうとしているのかもしれない。(200字程度)

解説

「追究する問い」「考えの根拠」「解釈、自分の考え」の順で記述している。

「川」の存在について300字程度で解説した文章例

物語の中で川はどのような存在であると言えるのか。  
物語の始めと終わりには、川が休まず流れ続ける様子がえがかれている。また、各場面では、物を流し、笑い、ノリオと遊ぶ友達のような存在としてえがかれたり、時にこわい存在としてえがかれたりしている。「鉛色の川」のようにノリオたちの様子を表すときもあれば、父の死の場面で「さらさら」と歌って「いるときもある」。  
川は、さまざまな表情を見せるが、どんなときも、変わらず流れている。ノリオがさまざまな状況に置かれながら成長していくのは対照的に、川はずっと変わらない存在としてえがかれる。  
『川とノリオ』という題名は、そんな大きな存在である川と、変化の中で成長していくノリオを表したものである。(300字程度)

解説

川が作品の中でどのように描かれているかを確認し、「変わらず流れ続ける」存在として、ノリオと対照的に描かれていることを題名と関連づけながら解説している。

ワンポイント

これまでの学習を振り返り、物語のテーマについて「あとがき」でまとめる

『川とノリオ』は、一人の少年の成長の物語である。母との幸せな幼少期を過ごしたノリオは、戦争によりじいちゃんの子となり、重く苦しい時代を生きていくことになる。いつとも休まず川が流れる中、ノリオは母への思いを胸にいだきながら、けんめいに生き、成長していく。  
この作品は、時代の流れにほんろうされながらけんめいに生きていく人の営みがテーマなのではないかと感じている。  
今回、作品を何度もくり返し読むことにより、直接えがかれていない人物の心情を想像したり、表現の意味を考えたりした。一読しただけではわからなかったことがだんだんわかってくるおもしろさや、自分なりに考える楽しさを味わうことができた。これからも考え、想像する読書を楽しんでいきたい。

解説

作品の内容と自分なりに感じたテーマをまとめ、繰り返し読んで想像したり考えたりする読書の楽しさについて書いている。本単元を通じて粘り強く、学びを調整してきたことがわかる。



ラーニング・マウンテンについてはこちらから

ラーニング・マウンテン  
— 学びのプランを立てよう —  
【6上『川とノリオ』】

単元名〔

〕全( )時間



みんなで解決したい問い

わかること・できること

考えること・表すこと

工夫して学ぼうとすること

【第 3 ステージ ( ) 時間】

〈こんな学習をしてこんな力を！〉



ゴール

【この単元を通したふり返り】

【第 2 ステージ ( ) 時間】

〈こんな学習をしてこんな力を！〉

【第 1 ステージ ( ) 時間】

〈こんな学習をしてこんな力を！〉

スタート



【この単元に関わって知っていること・できること】